

3. 先生たちは子どもたちが戻ってくることを心待ちにしていたことを伝え、 子どもたちの話に耳を傾ける

(教員たちの思いとそれぞれの様子の共有)

→みんな(子どもたち)のいない学校がどんなに学校らしくなく、子どもたちがいない職場での「先生」という仕事は退屈でつまらないものなのか、大いに語ってください。

子どもたちと再会し、言葉があふれてくる先生もたくさんいることでしょう。

そして、語りつくしたら、子どもたちのこの3ヶ月のことにもじっくり耳を傾けてみてください。

しばらくは、「みんなどうしていたの?」とそれぞれの様子を聞きあう・空白の3ヶ月を埋めあう時間がクラスの絆を深める機会になるかもしれません。

→登校時の様子も含め、いつもより丁寧に子どもたちの観察を行ってください。



表情、姿勢、身だしなみ等を以前と比べて見てください。気になることがあるときは、担任だけでなく養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどとも協力し合って、児童・生徒を支援しましょう。

4. 徐々に学校生活に慣らしていく

(休業前の生活・学習水準を要求しない)

→学校生活から長く遠ざかっていたので、子どもたちは未熟な状態に戻っていることを理解しましょう。そのようなときに「喝」を入れるような指導は、かえって子どもたちの社会復帰を阻害してしまいます。

新型コロナウイルス感染が本当に終息していくのか、終息しても第二波が来るのではないかと、大人の世界でも不安、心配な状況は続きます。そのような状況の中、無理して集中させることは学習への向き合い方を指導することにはなりません。「社会が厳しくするならもう外に出ない(ひきこもる)」と思い、成長することを拒否するかもしれません。「学校が怖い。ビクビクしてしまっていて疲れてしまっていて、起きられない」といった不適応症状を起こしてしまうかもしれません。

先生方が、元通りを求める気持ちになることは自然なことです。

しかし、ここは“はやる気持ち”を抑えましょう。“急がば回れ”です。できることから始めて、一歩ずつ進んでいることを実感させてください。

5. 笑顔で丁寧に健康観察(出欠席の読み上げ)を

(クラスへの所属感を高める)



→子どもたちの名前の読み上げはフルネームで丁寧にしてください!

→子どもたちとのアイコンタクトをきちんとしてください。笑顔や穏やかなまなざしであるといいですね。

担任の先生に名前を呼ばれることで「クラスへの所属感=ここが私のクラス(居場所)なんだなあ」という

意識が高まります。また、担任の先生との笑顔での呼称・アイコンタクトには様々な心理的効果・学びがあります。

- ①「先生に存在を認めてもらえている」という安心感
- ②「自分のことを肯定的に受け止めてくれている」という安堵感
- ③親密さの表現の見本を見せてもらっている（観察学習効果） などです。

*本来、子どもの時期は「スキンシップ」「一緒に過ごす」という方法で親密さを表します。しかし、現状ではリスクが伴います。そこで社会情勢に合わせて、「大人がやっている社会の中で仲間を作るときポイント」を先生との交流を通して学んでもらう機会とします。

身体的にふれあうことはなくても、短時間であっても、相手とのアイコンタクトなどを通して、表情や適切な言葉を選んで伝えることで親密になれることを、児童・生徒に経験しもらえる機会だと考えてみてください。

*マスクで顔の半分が隠れています。表情は、本来目と口元に出やすいので、笑顔が分かりにくくなること（眼鏡をしているとなおさら）など起こりえます。ご自宅や仲間内で自分の笑顔（表情）の工夫や検討をしてみてください。

6. これからは、感染拡大防止のための生活を



学校・児童生徒・家庭がともに取り組んでいくことを確認する

（感染拡大防止のための生活は今後も続く）

→これまでの学校生活に新たな約束やルールが必要になりました。まだ、その“途中”です。分からないこと、新たに分かったから変更しなくてはならないこと、昨日まで O.K が突如 N.G となるものがしばしばあります。先生と保護者が協力して声をかけあって、自分を守ろうとしてくれている…大人が手を取り合って、子どもたちの健康と健やかなところを守る、その姿を見せることが子どもには必要です。「一緒に考えよう。おうちの人ともいろんな話をしていこう」と、クラス、先生方同士、ご家庭とで前向きに話し合えるといいですね。

7. 身近に感染者が出た場合、噂をしたり差別的に扱ったりしないように指導する

（差別や攻撃が起こらないための予防）

→不安やストレスがたまると誰かを攻撃したくなりがちです。感染したのは仕方がないことで、誰にでも起こりうること。完治した後は、今までと同じように接することを、ぜひ確認してください。また、自分がその立場だったら周りの人にどう接して欲しいかを考えさせてください。

【最後に】

学校が再開すると、健康面の配慮をしながら教育課程を進めていかななくてはならないので、思いどおりにならないこともあるかと思います。しかし、先生方は様々な配慮が必要な中でも、子どもたちに指導をするという立派な仕事を果たしていることを思い出してください。

このような厳しい環境のなか、今までと同じように学級経営や学習指導はできなくて当然です。

苦難の中、できることを頑張っているご自分の働きを認めて褒めてあげてください！